平成27年度発達障害に関する教員の専門性向上事業

江田島市立三高小学校の取組

研究テーマ

主体的に学び，表現する児童の育成

～読み書きのつまずきを予想した指導と支援の工夫～

授業実践①（プラン）

◆第1学年国語科　単元名「おきにいりの『車しょうかいカード』をつくろう」
教材名「じどう車くらべ」【光村図書】

◆本時の目標

◎「車しょうかいカード」には，「しごと」と「つくり」を書くことを理解している。（読）

◆児童の状況と，それをふまえた指導・支援のポイント

学級全体の状況
- これまで，「問いと答え」で構成される説明文から，クイズ作りを設定し，学習する中で，大事な言葉や文，情報を書き抜くことができるようになっている。
- 国語が好きな児童は100％（H27・9月）

特別な支援が必要な児童の状況
- 平仮名・片仮名が未習得，文字理解・意味理解の理解力，位置関係の認知，目の動き，手先の不器用さ等から，読み書きが苦手である。
- 全ての音を拾ったり，集中力が持続しなかったりすることから，聞くことも苦手である。

指導・支援のポイント
- 「『車しょうかいカード』を書くために読む」という目的を明確にし，主体的な学習展開を図る。
- 教材文を読む際には，二つの問いを確認し，その答えとなる三つの車の具体例を縦に比較することにより，全て「しごと」と「つくり」の二段落構成になっていることに気付かせる。
- 「しごと」と「つくり」を色分けすることにより，視覚的にも比較できるようにさせる。

授業実践②実践の具体

〈仮説〉

児童の実態を把握し，つまずきを予想することによって，児童一人一人に適した指導と支援を行うことができ，主体的に学び，表現することができるであろう。

〈指導の工夫〉

1　単元構成の工夫

①「車しょうかいカード」を作るという言語活動を，単元を貫いて設定することにより，「書く」ために「読む」学習を展開する。主に入れ子構造をとり，教材文で学習したことをすぐに「車しょうかいカード」に活かせるようにする。

②第一次…教師作成による「車しょうかいカード」提示
　　お気に入りの車の選択理由を紹介
　第二次…１時間に一つずつカードの内容を埋める学習展開
　　図鑑からの情報の読み取り方を学習
　第三次…振り返り

授業実践②実践の具体

〈支援の工夫〉

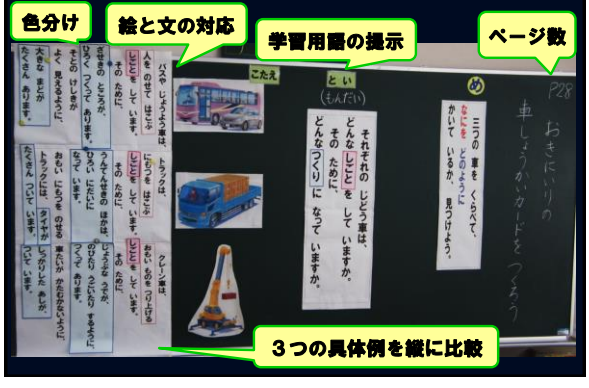
全体への支援

①学習計画の掲示
②教材文の車の具体例を縦に比較
③「しごと」と「つくり」を色分け
④学習用語の提示
⑤絵（写真）と文との対応
⑥ミニカー展示

個への支援

①支援グッズの活用
　・スリットシート
　・平仮名・片仮名シート
②意図的指名による発表
③よくない言動への教育的無視
④肯定的な評価と言葉かけ
⑤教材文の読み上げ・リード
⑥個別の対応

授業実践②実践の具体



授業実践③成果・課題

●本時の目標を全員が明確には達成できていない。（12人中4人）

○全体への支援や個への支援については，効果があった。
本時においては，特に，次の4点が効果的な支援だった。

◎教材文の具体例を縦に比較させる
◎「しごと」と「つくり」の色分け
◎支援グッズの活用
◎肯定的な評価と言葉かけ

▶課題として，本時のめあてが児童に分かりにくく，活動やまとめとリンクできていなかった。
▶最後のまとめの段階で，時間がなく，一人の児童の気付きを全体で深めることができにくかった。
▶児童個々が，ワークシートに線を引いたり○で囲んだりする作業に手間取り，時間がかかりすぎた。

授業実践④今後の改善点

（めあて）

▸三つの 車を くらべて，なにを どのように かいて いるか，見つけよう。

◎三つの 車を くらべて，「車しょうかい カード」に なにを かけば よいかを 見つけよう。

※めあてと活動とまとめを一致させる。

（まとめ）

※個⇒全体⇒個へと，考えを広げたり深めたりさせる。

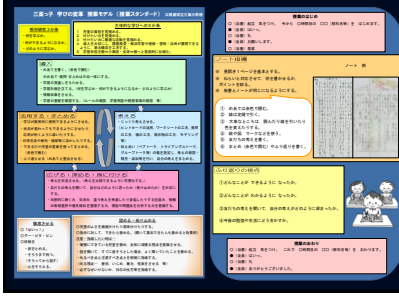
（書くこと）

※必要なことのみに限定させる。

普及・啓発①拠点教諭の取組

1「三高っ子　学びの変革　授業モデル」の作成

（授業スタンダード）



主体的な学びへ
授業改革

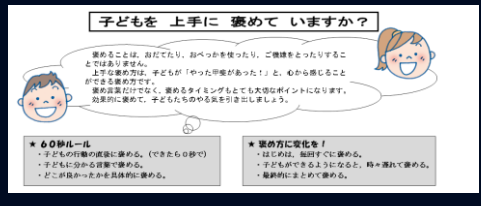
普及・啓発②拠点教諭の取組

2　保護者への啓発

年２回の発行（夏７月・冬１２月）

冬（12月）

研修で学んだ「褒め方・叱り方」について



普及・啓発③拠点教諭の取組

3　市特別支援教育コーディネーター研修にて報告

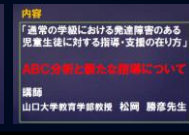
昨年度の専門性向上事業における研修報告を行った。

（Ｈ２７．４．３）

4　市教育研究会　特別支援教育部会にて研修報告

（H27．８月）

※昨年度，今年度の専門性向上事業研修で学ばせて頂いた「ＡＢＣ分析」による技法と新たな指導方法について報告を行った。



今年度の成果・課題

	成　果	課　題
授業実践	○個のつまずきを予想し，個々に適した指導や支援を工夫できるようになった。また，支援の幅が広がった。 ○国語科において，主体的な学びへと授業改革を意識した単元構成の工夫を行うことができるようになった。	●自力でできる児童が，安易に支援を欲するため，本当に支援が必要な児童に，支援を行うタイミングや支援を外すタイミングの見極めが難しい。 ●個と小集団，全体をいかに関わらせるか，方法だけでなく，内容を吟味する必要がある。
普及・啓発	○研修で学んだ「ＡＢＣ分析」の技法や子どもへの関わり方（褒め方・叱り方）を，保護者へ市内の教職員へ広めることができた。 ○広島版「学びの変革」アクション・プランに関わった授業スタンダードを作成できた。	●普及・啓発するためには，研修で学ぶだけでは分からないこともあるため，自分でも勉強するのだが，間違った情報を広めていないか，不安や心配がつきまとう。

次年度への展望

	取組の重点
授業実践	①作成した「授業スタンダード」を活用できるようにする。 ②つけたい力に最適な言語活動の設定と，めあて・活動・振り返りが一致した授業改善を行う。 ③児童が，主体的に友だち（ペア・小集団・全体）と関わりたくなるようなテーマや主発問を研究する。また，関わりをもつために必要な指導・支援の工夫を研究する。
普及・啓発	①保護者・地域のニーズや課題に応じたテーマを普及・啓発できるように，研修を積み上げる。